

【功績の概要】

佐藤 則武（さとう のりたけ）

【雅号・芸名等 佐藤 玄武（さとう げんぶ）】

〔文化財保護〕

昭和 24（1949）年 4 月 24 日（満 74 歳）
日光市在住

氏は昭和 41 年 3 月山形県立新庄職業訓練校塗装科卒業後、昭和 47 年に財団法人日光社寺文化財保存会（現 公益財団法人日光社寺文化財保存会）に漆塗技能員として入会し、以後一貫して日光二社一寺の文化財建造物保存修理において建造物漆塗技術の錬磨に努めた。平成 25 年からは漆塗監理技術者として漆部門の統括を行っている。その間、日光二社一寺において国宝陽明門をはじめ、90 棟を超える国宝・重要文化財建造物の漆塗工事や調査に携わり、当市の建造物における文化財保護に多大な功績を残している。

また、漆に関する歴史や技法、用具、原材料等についても独自に調査、研究を重ね、失われた技法や材料等の解明、復原を行い、得られた知見を元に、文化庁や東京文化財研究所等が主催する研究会や講習会等で発表や講義を行うことにより、技術の普及や解明、後進の育成に貢献している。

さらに、公益財団法人文化財建造物保存技術協会の会報等で調査成果を随時発表しており、令和 4 年 3 月にはこれまでに蓄積された知見を網羅的に纏めた著書「日光の建造物漆塗 幕府が繋いだ漆塗技術」を刊行した。

同人の漆塗に関する技術や調査能力が高く評価され、当市以外でも国宝出雲大社本殿（島根県）や国宝宝厳寺観音堂（滋賀県）、国宝延暦寺根本中堂（滋賀県）等で技術指導や仕様調査等を行ってきた。

また、令和 5 年より岩手県二戸市にて漆搔きの指導、国宝延暦寺根本中堂（滋賀県）、広島東照宮（広島県）、浅間神社（静岡県）、滝山神社（愛知県）等で漆塗や調査（設計監理）の指導を行っている。

令和 4 年 10 月には、国選定保存技術の保持者（建造物漆塗）として追加認定された。同年 11 月には、これまでの活動や貢献が評価され、栃木県文化功労者表彰を授与された。

主な保存修理例は、次のとおり。

昭和 49（1974）年	重要文化財	二荒山神社	本殿
〃 50（1975）年	重要文化財	東照宮	五重塔
平成 3（1991）年	重要文化財	輪王寺	開山堂
〃 11（1999）年	重要文化財	二荒山神社	神橋
〃 13（2001）年	重要文化財	輪王寺	三重塔
〃 25（2013）年	国宝	東照宮	陽明門
令和 3（2021）年	重要文化財	東照宮	下神庫